

機関番号：34101

研究種目：基盤研究（c）

研究期間：平成 20 年度～平成 22 年度

課題番号：20530548

研究課題名（和文） ボランティアコーディネーターの研修プログラムの開発に関する研究

研究課題名（英文） A Study of development of training program for volunteer coordinator

研究代表者 守本友美（MORIMOTO TOMOMI）

皇學館大学・現代日本社会学部・教授

研究者番号：70300332

研究成果の概要（和文）：ボランティアコーディネーターが抱える課題として、①ボランティアプログラムに関する課題、②ボランティア募集に関する課題、③ボランティアへの継続的な支援に関する課題が明らかになった。それを踏まえて、ボランティアコーディネーター養成講座の構成要素として、a)ボランティアコーディネート概論、b)対人援助技術の習得、c)ボランティアプログラムの企画・立案、d)ボランティア活動の評価、が必要となることを明らかにした。特に、ボランティア活動を推進し、ボランティアを育成する立場として評価やスーパービジョンに重点を置く内容を目指すものが求められることを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：日本語から英語に翻訳

As the challenges facing volunteer coordinator, it was clear that there are three issues, as follows. ①issues on volunteer program,②issues on recruiting volunteers,③issues on continuous support for volunteers. Based on that, as components of the volunteer coordinator training program, it was required that there four points, as follows, a) Introduction to coordinate volunteers, b) acquisition of support skill, c) planning of volunteer program , d) assessment of volunteer activities . In particular, it was expected that the programs are required that the contents of those aim to focus on evaluation and supervision to develop volunteer activities and to train volunteers.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
平成 20 年度	1,100,000 円	330,000 円	1,430,000 円
平成 21 年度	500,000 円	150,000 円	650,000 円
平成 22 年度	1,000,000 円	300,000 円	1,300,000 円
年度			
年度			
総計	2,600,000 円	780,000 円	3,380,000 円

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会福祉学

キーワード：ボランティア・福祉 NPO

1. 研究開始当初の背景

代表的な研究内容は、ボランティア活動の希望者とボランティアの支援を求める人との間に立ち両者をつなぐ仲介型のボランティアコーディネートのあり方について体系的に捉えられているものである。90年代に入り、新たな仲介型の機関の登場によるコーディネート理論の問い直しの中で、ボランティアコーディネーターの専門性とは何かを明らかにすることが、重要なトピックとなってきたのである。「ボランティアコーディネーター養成・研修プログラム開発のための基礎研究」が科研費の採択課題となり、近畿二府四県の配置状況や養成・研修体制状況を明らかにし、養成・研修プログラムの枠組みを提示した研究も見られた。しかしながら、これまでの研究は専門性そのもののあり方についての議論や研修プログラムの問題点を指摘するにとどまり、専門性向上のための研修プログラムの具体化までには至っていないのが現状である。

海外の状況としては、80年代まではボランティア活動希望者とボランティアのサービスをつなげていくという仲介型のコーディネート理論が主流であったが、90年代にNPOにマネジメント概念が取り入れられるようになってきたのと軌を一にしてボランティアマネジメントという概念が現れた。NPO活動の活発な米国においては、ボランティアコーディネーターの研修はスタッフの現任訓練として各NPO内で行われている。

2. 研究の目的

社会福祉施設においては、地域住民の社会福祉に対する意識を向上させ、福祉活動への参加を推進し、「共に生きる」社会を実現させるためにも、ボランティアコーディネーターの専門性を高める研修の体系化されたプログラムへの必要性が高まっている。ボランティアコーディネーターの研修については、全国社会福祉協議会全国ボランティア活動振興センターが1996年、社会教育主事等

のボランティア活動推進者を対象とする「ボランティアコーディネーターの養成・研修のあり方とプログラム試案」として提示しているが、対象者は社会教育関係者であり、社会福祉領域のボランティアコーディネーター対象のものではない。また、プログラム試案は10年前のものであり、社会福祉協議会や社会福祉施設に期待される機能が多様化する現在のプログラムに汎用されるとはいいがたい。

本研究では、地域におけるボランティア活動推進の役割を担うボランティアコーディネーターの資質向上のためにどのような内容の養成・研修プログラムが求められているのか、プログラムのなかで何を強調しなければならないのかを、三重県社会福祉協議会主催のボランティアコーディネーター養成講座の事例とその評価を通して明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

(1) ボランティアコーディネーターの配置及びボランティアの受け入れに関する実態調査

研修プログラム検討の際の基礎資料とするために、三重県内の社会福祉施設を対象とした質問紙票による調査を行った。

(2) 研修プログラム作成のための事前研究として以下の機関にヒヤリング調査を実施する。

- ①東京都ボランティア市民活動センター
- ②大阪ボランティア協会
- ③日本ボランティアコーディネーター協会

(3) 研修プログラムの企画・実施

前年度実施の調査結果を踏まえて、守本が所属する皇學館大学において三重県内福祉施設職員対象のリカレント教育プログラムの企画を前年度2月末までに立て、実施する。

(4) 効果測定の実施

ボランティアコーディネーター養成講座受講生に対して、教育・研修の効果測定のための調査を実施する。

4. 研究成果

質問紙票による調査の結果、74.4%の施設がボランティアを受け入れているが、そのボランティアを支援し、施設と地域社会とを結び相互の関係を築いていくための役割を担う専門職であるボランティアコーディネーターの配置がされているのは、26.7%にすぎなかったことが分かった。そして、ボランティアコーディネーターが配置されていないことから、ボランティアを受け入れ、支援していくために必要な内容の実施度が低いことも明らかになった。「ボランティア受け入れのためのマニュアルを作成している」「ボランティアのための部屋を用意している」などの物的環境整備については、そのなかでも比較的实施度が高い内容であったが、ボランティアへの直接的支援については、実施度の高いものと低いものとの差が見られた。特に、ボランティアコーディネーターの重要な役割となる「ボランティアへのスーパービジョン（相談）を行っている」の実施度が10%にも満たないことは、ボランティアへの支援が十分には行われていないことを示している。

社会福祉施設は施設利用者にサービスを提供することのみにとどまらず、地域からのボランティアを受け入れ、住民の自発的な福祉活動を支援することなどを通して地域福祉推進の機能も期待されている。この機能を果たしていくためには、施設におけるボランティアコーディネートの手法の導入と組織体制の整備が急務であり、ボランティアの受け入れに対する考え方を明確に打ち出し、コーディネーターの役割を担う担当者を養成し配置する必要がある。

そのためのボランティアコーディネーター養成講座の構成要素として、a)ボランティアコーディネート概論、b)対人援助技術の習得、c)ボランティアプログラムの企画・立案、d)ボランティア活動の評価、が必要となることを明らかにした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

・守本友美「日本の社会福祉施設におけるボランティアコーシネーション」『日本学論叢』皇學館大学現代日本社会学部紀要、NO.1、109-124、2011

・守本友美「社会福祉施設におけるボランティアコーシネーションの現状と課題」『地域福祉研究』日本生命済生会、NO.39、119-127、2011

・守本友美「社会福祉施設におけるボランティアの受け入れの現状と課題」『厚生指針』厚生統計協会、5月号、30-35、2011

〔学会発表〕(計1件)

・守本友美、立石宏昭「社会福祉施設におけるボランティア受け入れの現状と課題」日本地域福祉学会第24回全国大会、2010年6月13日、敬和学園大学

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況(計◇件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

・3年間の成果をまとめた報告書作成(183頁)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

守本友美 (MORIMOTO TOMOMI)

皇學館大学・現代日本社会学部・教授

研究者番号：70300332

(2) 研究分担者

立石宏昭 (TATEISHI HIROAKI)

九州産業大学・国際文化学部・教授

研究者番号：10352014

(3) 連携研究者

()

研究者番号：